



ふるさと笠松の「モラルセンス」No.8



「心頭滅却すれば、火もおのずから涼し」 快川 紹喜 (かいせん じょうき) 国師は門間の出身？

笠松町史によると、快川和尚は土岐氏の代官北門間道家佐京進の三男だということです。恵林寺略史によれば生まれたのは1501年(文亀元年)です。

国師という称号は、快川和尚の道德を慕って、門下に入る者が数千人に達するほどの威徳を聞いた、正親町天皇が与えました。つまり、[国師]とは国や人の師として手本となるべき高僧に贈られる最高の称号です。

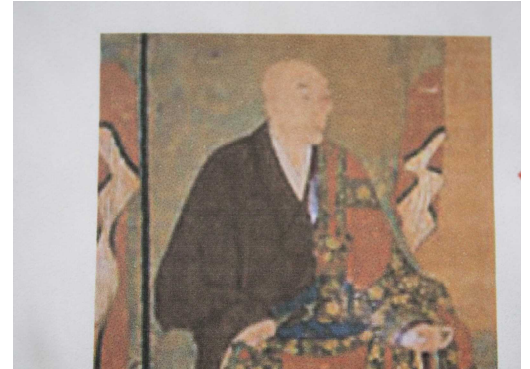
快川 紹喜は12才で出家し、人望が厚く学識や能力にも恵まれ、美濃の崇福寺や南泉寺の住職として活躍しました。その後、武田信玄に招かれて恵林寺に入りました。信玄の旗の「風林火山」の文字は快川和尚が書いたといわれています。

信玄は病に倒れましたが、3年は死を秘密にするよう遺言しました。3年後の葬儀の時に大導師をつとめたのは快川和尚です。信玄の死後、勝頼の代になってから長篠の戦いで織田と徳川の連合軍に大敗して以後、武田家は衰退の一途をたどります。

快川和尚は、織田に武田家が滅亡させられた1ヶ月後、信長の追っていた大和淡路守など3名をかくまい、引き渡しにも応じませんでした。怒った信長により恵林寺の山門に追い上げられ、火をつけられて100名ほどの僧とともに焼け死んだそうです。そのとき、見出しのような「心頭滅却すれば火もおのずから涼し」という言葉を残したのはあまりに有名な話です。この年に、織田信長は本能寺の変で殺されます。

快川和尚の正しいと思う信念に従い、何事にも毅然とした態度で臨む姿は、多くの人のあこがれであり、この話が今日までの長い間、語り継がれてきた理由だと思われます。

※快川和尚の出生地については、加茂郡飯地村や栗栗郡足近村などの諸説があります。



↑快川和尚の画像



↑門間にある「弘濟寺」は快川和尚が、生まれた場所に創建したと言ひ伝えられています。



↑門間にある「弘濟(禅)寺」

幼、保、小、中、高校生の皆さんからボランティア体験を募集します。ぜひ、お寄せください。また、町内で「ちょっといい話」を小耳にはさまれましたら、笠松中央公民館担当まで電話、FAX手紙、意見箱などの方法で、ご連絡いただくと幸いです。記事にさせていただくことがあります。なお、この「モラルセンス」は笠松町のホームページの「道德のまち」のバナーをクリックすることによって、第1号から最新号まで閲覧できます。ご活用ください。Tel 388-3926 FAX 388-3233